

令和3年度 全国学力学習状況調査 国語科分析

1 正答率の高かった問題

- 文脈に即して漢字を読む問題（100%）
- 話合いの話題や方向性を捉える問題（88.9%）
- 質問の意図を捉える（83.3%）
- 登場人物の言動の意味を考え内容を理解する（83.3%）

※基礎的な問題は、概ね正答率が高い。

2 正答率の低かった問題

- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ（5.6%）
- 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く（16.7%）
- 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する（38.9%）
- 文脈の中における語句の意味を理解する（33.3%）
- 相手や場に応じて敬語を適切に使う（33.3%）

※応用的な問題は、正答率が低く、特に登場人物の立場や考えを、根拠をふまえて明確にすることと、話題の情報量や興味・関心に考慮すること、段落構成や文脈の意図を捉え読解する力が低い。

3 全体を通して

読解力を身につける上で、言葉の本質や意図を捉える必要があると感じた。基礎的な知識問題や単純な問題には取り組めるが、明記されていないものを考えて書くことや説明を求められることに、言葉の裏を取ることが苦手な傾向が見られる。

読書活動の充実や、新聞のコラム学習は語彙量を増やすためには必要なため継続して行っていく。その際に、語句に興味を持たせ、知識の定着と共に語句の活用に発展させるように指導する必要がある。

また、話し合い活動の中では、自分の意見に根拠を持ち発表する実践や、相手の発言を自分で解釈し要約する場を設けていきたい。